

# 円空作木造千手観音立像

平成6年3月16日 埼玉県指定有形文化財（彫刻）

●八潮市大字八條 3877 番地（大経寺）

大経寺観音堂には、円空作の千手観音像が安置されている。この円空仏は像高が2メートル43センチあり、埼玉県下最大の円空仏で、全国の円空仏としても極めて大きい像のひとつである。

像は頭部に十一面を刻み、大手4本は体の前面で合掌し宝珠を持つ。体の左右には、千手を象徴する24本の別材で作られた脇手を釘で打ち付けている。本像の木取りは3つの部分から構成されており、下半身の2段は櫨の白を縦に2つ割にして上下に積み上げ、上半身は別に杉材を使って仕上げている。円空仏は一木造がほとんどで、大像

は比較的少ないなか、この像は部分彫りや転用材を用いるなど、円空の特異な造形思想が表現された大作である。

この円空仏は、埼玉県内のさいたま市（浦和・大宮・岩槻）、蓮田市などに分布する埼玉彫りと言われる円空仏とは異なり、茨城県や東北地方の円空仏に近似した円空のごく初期の作と思われ、円空が諸国を巡り歩いた足跡から、蝦夷地からの帰途、寛文8年(1668)頃の制作と推定される。

現在は秘仏として公開されておらず、ご開帳は6年に1度、子年と午年に行われている。

